PEOPLE 人窓

みなさんの活躍紹介します

《日本航空（ＪＡＬ）》からの出向職員を紹介します

立ち寄りたいまち 住みたくなるまちへ

千歳市企画部参事
庄司（しょうじ） 貴志（たかし） さん

鳥取県出身／1997年日本航空株式会社入社、香港営業所長、開発部を経て2022年より千歳市へ出向。「旅行好きが高じて入社した」と語り、学生時代には北海道をはじめ、アフリカ、チベットを自転車部で周遊した経験を持つ。

日本航空株式会社（ＪＡＬ）から千歳市企画部に参りました。ＪＡＬでは営業やプロモーションを主に担当し、東京本社や札幌、福岡、香港などに勤務してきました。

千歳市での担当業務は《地域の活性化》です。千歳市は、そのままにしていても注目されるまちですが、支笏湖や農村地域のＰＲという面では、観光をはじめ、地域の産品やふるさと納税を国内外でプロモーションして活性化するなど、外から見てまだまだやれることがある印象です。市長をはじめ皆さんから「交流人口を増やしたい」との思いが強く伝わってきますし、観光をきっかけに定住につながるような、交流人口を拡大することで定住人口も増やすお手伝いをしたいと思っています。

ＪＡＬは今、ドローンの実用化に注力していますが、千歳市においても過疎地域への物資輸送や、新千歳空港からの乗り継ぎサービスなどの需要が見込めます。在任中に、その最初の一歩といえる事業を実現したいです。

ＪＡＬ社内では《地域目線》という言葉がよく使われていますが、実際に千歳市に赴任してみると、今までＪＡＬで考えてきたことと、地域でやりたいことがズレていることがあります。任期が満了する頃には、地域目線で本当に有効、必要とされているものは何かを理解してＪＡＬに持ち帰り、今後の地域事業の方向づけに役立てたいと思っています。

新千歳空港は空港の中でも楽しめる素晴らしい空港ですが、千歳市内に《立ち寄ってもらう、滞在してもらう、定住につなげる》にはどうするか、もっと考えていきたいです。旅行客に「ちょっと寄ってみよう」、できれば「定住しよう」と考えてもらえるよう、これから千歳市の魅力をどんどん発信していきます。また、今までの立場ではできなかったＪＡＬ以外のエアラインと一緒の活動を通じて、千歳市ならではの《空港のまち》を盛り上げていきたいですね。

第3回

姉妹都市 指宿市について

今月は千歳市の姉妹都市、鹿児島県指宿市について紹介します。

千歳市と鹿児島県指宿市との交流は昭和48年から始まり、平成6年に姉妹都市提携を結びました。指宿市は薩摩半島の最南端錦江湾口に位置する人口約4万人、面積148・81㎢の豊かな自然に囲まれたまちです。

毎年4月末に指宿市長による「アロハ宣言セレモニー」が行われ、10月末までの期間中、市職員や銀行職員が「アロハシャツ」を公用服として着用し、南国ムードあふれる雰囲気で観光客の方々を迎え入れています。

姉妹都市提携により、各分野での幅広い交流が始まり、現在までに観光イベント交流、青少年相互派遣事業、商店街交流、マラソン大会交流などさまざまな交流が行われています。

昨今は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から訪問交流は休止していますが、両市の児童がオンラインでの交流を続けています。

また、千歳市と指宿市は職員の人事交流を平成7年度から3年おきに実施しています。平成31年度には提携25周年を記念して、最北端の休暇村支笏湖と最南端の休暇村指宿が、地元食材を活用したランチを市民に提供するレシピ交換を企画しました。

令和6年度には提携30周年を迎えます。記念事業を予定していますので、楽しみにしていてくださいね。

アロハ宣言セレモニーの様子

レシピ交換会の様子